episode.01

金山を見つめ、過去を探る

話し手　郷土研究家
所崎（ところざき）　平（たいら）さん　（昭和11年10月15日生）

聞き手　鹿児島県立串木野高等学校 1年

石との出会い

私は所﨑平と言います。83 歳超えました。中国の山東省、青島市で生まれ、終戦の年の昭和20 年 12 月 19 日、小学 3 年生の 2 学期に日本へ帰ってきたんです。船で京都へ向かっている途中、台風に遭遇し、幸い鹿児島に流れ着き、その日の夜に串木野へ向かいました。中学 3 年生の時からどういうわけか石を集めるのが好きでね、串木野駅の裏に金山のくず石が山盛りにあったから集めてました。大人になってから国語の高校教員をして県内をまわりました。その頃には、古墳と土器にも興味を持って、転勤先で土器を探したり古文書を集めたりしましたね。28 歳の時に名瀬の郷土編纂をお願いされて、名瀬市で学校の教師と編纂員として 10 年したんですよ。それから教員をしつつ、編纂員もしつつですね。

編纂作業は、発掘作業のよう

串木野の郷土史を編纂することになって、金山を調べました。金山を調べるには、まず資料から調べようと思い、島津家の文書がある尚古集成館に行きました。串木野鉱山は、元々は島津家が扱っていたからね。そこに、資料はあったんだけど、崩し字でなんて書いているか読めないわけよ。だから一文字一文字、漢字に訳しましたね。訳しても今度は、書いている文が何を意味しているのかわからんわけよ。それでいろいろ聞いて歩いて、「こういう言葉は、こういうことを意味しているんだ」と調べました。それと同時に、金山のことも知るために他の金山を見てみようと思ってね、全国の金山を何か所かまわったりしましたね。

金山の魅力は

その穴を見るちゅうことだなぁ。穴は正直入りたくないですよね。暗くて、湿気があって気味が悪い。たまにコウモリも出たりしますよね。でも、壁を見ていくと金が入っている壁を見つけたりするんですよ。そういうのが、宝探しの冒険をしているようで楽しいですよ。

環境に思いを馳せる

串木野鉱山の石は、水晶みたいなのが入っていて、非常に硬い。だから、発掘は非常に面倒なのよ。この硬い石から金をどうやってとるのか、それも勉強しました。いくつか方法があるんだけど、明治の前は水銀を使って金をとる方法があってね。水銀は、鉱石をアマルガムっていう合金にしてしまう。で、アマルガムを焼いたら金が出てくる。水銀は公害があるから、今度は青酸カリ系の毒が薄いのを混ぜる方法を使ったのよね。終戦後、それを川に流すと公害が起きるから海に流した。そしたら青酸カリで毒が薄いといっても魚が死ぬのよ。だから地元の人は、その魚をとった時は内臓を取って食べたって言ってたよ。そういうことがあって砂を取り除いて処理して、今ではそういうことはなくなりました。それくらい串木野の海岸も変わってきたのよね。

聞き書きコラム

牛は金へと導く！？

串木野の金山は、17世紀半ばに鉱脈が発見され島津氏の命により開発されたと言われている。この鉱脈発見には、不思議な伝説が残っている。「昔、島津の殿様が金峰山の神に金を祈願した。何日か過ぎたある日、『金峰山にも金はあるが、それは神のものです。串木野の芹ケ野という所へ案内しましょう。』と、神は牛の姿に化身し、案内した。串木野に着くと、金峰山の神は、金色に輝く金のありかを教えた。」鹿児島には他にも“神から赤牛のような岩があるとお告げを受ける「夢想谷伝説」”など、牛が金へ導く伝説が残っている。